

令和4年度 第4回 津山市地域公共交通会議 会議要旨

令和4年12月23日 9:30～
津山市役所東庁舎 E101会議室

1 開会 明楽産業経済部長

本日は委員15名のうち、現在10名の出席をいただいておりますので、設置要綱の規定に基づき、本会が成立していることを報告。

2 会長挨拶 栗村会長

3 報告事項

(1) 年末年始ダイヤについて

【事務局説明】

事前に書面審議を行い、年末年始ダイヤとして例年、中鉄北部バスが1月1日から3日まで年始のダイヤを運行しているが、今年は諸事情により運転手の配置が厳しいため、12月31日も年始ダイヤに加えることを諮ったところ、全員から承認をいただいたので、運輸支局へ提出した。

(2) ごんごバス小循環ルート変更について

【事務局説明】

今回で3回目の実施となるが、さくらまつり期間に合わせて、小循環線のバスルートを一部変更する社会実験を令和5年度も実施したい。

運行日については、令和5年3月19日の日曜日、21日の祝日、26日の日曜日、4月2日、9日の合計5日間を予定。さくらまつりは3月25日から4月9日までの予定だが、最近桜の開花が早いため早めに開始する。

ルート及び運行時間について、ルートはこの時期に観光客の多い津山まなびの鉄道館と津山市観光センターを往復。効果目標は例年通り1乗車当たり10名の乗客を見込む。

運行時間については、JR等の発着時間に合わせた運行を検討中。

その他、ルートの変更期間中に使用できる1日乗車券の販売を行う。

また、新型コロナの影響等もございますので、もしさくらまつりの中止が決定した場合やバス運行事業者でクラスター等発生した場合は改めて検討する。

【委員A】

年末年始のダイヤについて、この会議で運休してはどうかという提案から運休した経緯があるが、それ以降、利用者から、苦情や要望はあったか。

【委員B】

特に、苦情などはございません。

【事務局】

市の福祉部局には電話で時間が変わる場合、早めに周知をして欲しいと連絡があった。市や中鉄北部バスのホームページ、各バスの停留所への張り紙等でしっかりと周知したい。

4 付議事項

【事務局説明】

それでは津山市地域公共交通計画素案をご確認ください。

1ページから34ページまでは、前回会議で協議いただいた内容を修正したものの。

35ページの第4章 公共交通の問題点と課題から今回追記した内容。

35ページから42ページまでを説明。

【委員A】

36ページの③駅やバス停から離れている高齢化ですが、実際の高齢者の世帯情報の把握方法は。同居者がいる場合といない場合で状況は変わるし、その同居人がどういった年代なのか等で状況は変わるが、そういった細かな状況の把握はしているのか。

【事務局】

今回のデータは、国勢調査のデータを基に作成しているので、世帯の詳しい情報までは把握しておらず、あくまで各年代の居住分布というデータ。

【委員A】

市役所の高齢介護課からこうしたデータを入手し、分析することで生の実態が出てくるのではないか。

【事務局】

担当部局と協議して、実施時に対応を検討したい。

また、これまで高齢者施策として、加茂、勝北、久米地域で地域巡回バスを運行してきた。

利用者数が大幅な減少傾向にあり、利用動態の変化の情報収集に努める。

【委員B】

42ページの7阿波 問題点14が分かりやすいが、乗っていた方が乗らなくなった要因としてコロナもあると思うが、便が悪い、効率が悪いなど原因が分かれば、そのあたりの調査を全体の地域でお願いしたい。

【事務局】

分析については、市と事業者と一体で調査してまいりたい。

【委員C】

40ページで、路線バスの利用が減少しているとあるが、どこをどのバスが走っているか知らなかったという意見を良くいただく。広報つやまなどの冊子で、毎月載せるなど、走っていることを宣伝することが必要ではないか。

行き先と目的地が合わないから乗らないだけではないと思う。ごんごバス勝北線も、イオン津山まで行けるけれど、途中どこを走っているか知らない人が多いと思う。

【事務局】

ごんごバスに限らず、路線バスが各地域をどのように走っているのかが周知できていない状況にある。

交通会議の中でも時々説明しているが、公共交通乗り方教室を開催し、公民館を中心に、地域でバスに乗ってイオン津山に行くなどの催しをしている。ここで、バスに触れてもらうように取り組んでいる。

今いただいた提案は、今度の取り組むべき課題に反映させていただきたい。

また、運転手の皆さんからいただく情報は非常に有効ですので、今後連携させていただきたい。

【委員D】

岡山市では公共交通マップを作っていた。そういったものを参考に取組んでみてはどうか。

【事務局】

津山圏域定住自立圏で圏域の公共交通マップを作成したが、予算の関係上全世界帯へ配布することができなかった。交通計画ができ、交通網が整理できたら、改めて検討したい。

【会 長】

1枚紙で作成し、広報つやまに挟み込めば、良いのではないか。岡山市は1枚だったと思うが。

【委員D】

岡山市は、大きな紙1枚で2パターンくらい作っていた。

【事務局】

そちらを参考にさせていただきたい。

【会 長】

ごんご勝北線で、奥津川から移動する人はいるのか。加茂の方が近いのではないか。

【委員C】

奥津川の方は、集会所から下津川まで出て、乗り換えてごんご加茂線を利用する方が多いと聞いている。

【事務局】

今のごんご勝北線は、奥津川から勝北に行くのは、旧町村時代の名残で広戸地区に属しているの、勝北地域の病院や商店を利用することを想定し設定している。

【会 長】

今は、勝北地域でなくて津山市内の方が便利で近いから津山方面に行っているのではないか。阿波加茂含めて、バス間連結で便数が増やせるかもしれない。また、導線も考えなければならない。

軸と串なので、串を広げて軸につなげるやり方を検討して欲しい。

【委員A】

長期的にはその通りで、この路線があることで生活のパターンを作られてる方もいるので、変えるときは慎重にして欲しい。

【事務局】

43ページから46ページ、公共交通の問題点と課題に対して、取り組むべき課題、公共交通のめざす姿、将来像について記載しています。

～内容を説明～

【会 長】

この45ページの表には、やっぱり東一宮までの大動脈の線があっても良いと思う。

【事務局】

一宮小学校周辺は宅地開発が進んでおり、住民が多いが利用に適した路線が少ない。また、鶴山通りを通る路線はスポーツセンター高下線ぐらいしかない。

日中の移動には大学生をターゲットにした路線も必要なので、美作大学を經由するようなバス路線も必要と考えている。

【会 長】

高校、大学、それから東一宮周辺の住宅のを經由するような路線を。

【事務局】

津山高専から美作大学を經由して駅に行くルートは、学生が動く時間帯だけとは思いますが、沼地域も住宅が増加しており、こちらにもバス路線がなく、要望の多い地域。

【会 長】

東一宮周辺の住民には、今後バス利用をしてもらう習慣をつけてもらいたい。車でなく、常に公共交通で移動してもらうような考え方があっても良いかと。

【委員A】

その場合、広域幹線とごんごバスと同じような地域間幹線のどちらを想定しているか。

【事務局】

鏡野町との連携もありますが、基本的には循環線のイメージ。

【会 長】

最後、47ページについて説明を

【事務局】47ページは、課題を解決するために実施する事業を記載。

～内容を説明～

【委員C】

こちらに書いてある、情報手段がホームページやポータルサイトとあるが、高齢者は扱えないので、そのあたりをよく検討していただきたい。

【事務局】

津山市のホームページ、広報紙などを活用して記載しておりますので、広範な方をカバーする手法を検討する。

【委員A】

広報誌だと、住民だけの送付になる。観光や仕事で来た方のフォローは。

【事務局】

津山駅北口広場に、にぎわい交流館があり、こちらに紙媒体の情報提供を置いている。また、隣の交通観光案内所では、中鉄北部バスの乗車券販売所、観光協会の案内所もあり、そうした施設と連携して物理的な情報提供に努める。

【会 長】

津山市は、スマートシティを進める中で、DXを活用して行きたい。

【委員A】

7番のICカードの普及に向けた取組があるが、ICカードが普及すると、どのようなデータが取りやすくなるのか。

【事務局】

今回導入するICカードは、乗車時と降車時の2回タッチする形で、乗降データ（人数、場所）を取得できる。

ICカードが普及するとデータ取得が楽になるので、JR西日本にも協力をいただいて、整備を進めている。

【委員A】

6番目の通学定期について、現状で通学定期は途中下車できない仕組みか。

決まったバス停から、学校近くのバス停まで全て乗らなければならないのか。

バス停からご自宅までちょっと距離があって、途中の施設で待ち合わせることもあると聞いたので、途中で降りられるのかが気になった。

【委員E】

JRでは途中下車も可能。ただ、路線が違うものは出来ない。いわゆる自宅最寄駅から学校の最寄り駅まで、直線的に決められているので、その間であれば、特に乗降の規制はない。

【委員C】

路線バスも、基本的には定期券区間内であれば、途中下車も可能。特に、ナギテラス辺りではよく見かけます。

【会 長】

45ページの将来像の表が見やすいので、この表にしっかり盛り込めようとしたい。

さきほどの大動脈が東一宮の話もあるが、団子と串になっていないといけないので、立地適正化計画の居住誘導をきちっと入れて、例えば高野とか東一宮は地域生活拠点の黄丸でも良い。更に、幹線に向かった葉の部分がここに乗っても良い。幹線に向かって、葉の部分の路線をどうするか或いはタクシーでするのも良いが、本来公共交通は市町村でやるものだが、他の町にも声をかけてあげても良いのではないか。

【事務局】

定住自立圏の自治体とは、頻繁に情報共有をしており、最近は、JRの関係で真庭市・美作市とも情報共有を行っているので、協力したい。

【会 長】

やはり、立地適正化計画がまちの基本なので、それの中の一つ。コンパクトプラスネットワークのネットワークとして、コンパクトな街づくりの中でこの公共交通が担う部分を明記して欲しい。

今後ごんごバスを使いやすくする方向で。

【事務局】

本日いただいたご意見を速やかに取りまとめし、次回は課題解決するために実施する事業として、目標設定と検証の方法、そしてこれからのサービスのあり方について、1月に諮りたい。

～全会一致で承認～

5 その他

～ 閉会 ～